

FUREAI NEWS

アクアリウムさがみはら情報誌
Vol.10



相模川ふれあい科学館
アクアリウムさがみはら

はじめに	2
Off-campus events	3
地域連携	4
調査・研究	6
他団体・他機関との連携	8
ふれあい田んぼ探検隊	9
特別企画展	
◇ちっちゃな生き物展	10
◇ワンドフル!! 昆虫展	12
◇相模の海の生き物展	14
◇いきものたちの目展	16
マンスリー水槽	18
ミニトーク水槽	19
海の生き物水槽	20
小川の実験観察テーブル	21
水辺の生き物水槽	22
インターンシップ	
ものづくりワークショップ	23

「お客様への感謝の 気持ちを胸に、これからも。」

相模川ふれあい科学館
アクアリウムさがみはら
館長 坂野 浩一



2023年度は、おかげさまで多くのお客様にご利用いただき、年度合計入館者数は22万人程度の見込みとなりました。5月には新型コロナウイルス感染症の位置づけが5類へ移行して通常営業体制になったことや、10月には相模原市が少子化対策の一環として、相模原市内在住や通学している子どもを対象に料金無料化が開始したことで、ご来館者の増加に繋がりました。

また、指定管理者制度2期目の最終年度でありましたので、指定管理者公募に応募し、これまでの1期と2期合計10年間の実績により、3期目5年間(2024年4月～2029年3月)も引き続き、株式会社江ノ島マリンコーポレーションを指定管理者としてご承認いただきました。

1952年に会社設立した株式会社江ノ島マリンコーポレーションは、“江の島水族館”として水族館事業を開業し、現在は“新江ノ島水族館”“世界淡水魚園水族館アクア・トトギス”の3館の水族館を運営しております。

『水族館は、楽しくて、ためになって、夢が持てる場』『時代やお客様の要望に応じて、柔軟に展示内容・方法を変えていく姿勢を持つパイオニア精神を忘れずにチャレンジする会社』を経営方針とする会社です。

相模川ふれあい科学館は、お客様の声をお聞きすると「ちょうどいい広さの水族館」「施設がいつもキレイで、展示に工夫がされ、イベントも面白くて、いつも新しい発見がある」との評価をいただいております。

指定管理者3期目スタートの2024年度は、6月に新たな水槽展示の設置にチャレンジします。また、生き物の展示やイベントを通じて、「面白くて、ためになる」水族館として、お客様に笑顔で楽しい時間を過ごしていただき、「また来たくなる水族館」をこれからも目指していきます。

最後になりますが、私は2024年3月をもちまして館長を退任し、展示飼育部長の伊藤が館長に就任いたします。これまで地域の皆様をはじめとして、多くの方々にご支援ご協力をいただきました。誠にありがとうございました。

これからも、相模川ふれあい科学館へのご指導賜りますようお願い致します。

親子で磯観察ツアー

2023
4.22

西田 征晃

これから磯に行くぞ！というハイテンションな気持ちとは裏腹に、想像以上に気温の低い日となった「親子で磯観察ツアー」の当日。

寒すぎて生き物たちが全然いないのではないかと心配になりましたが、参加してくださった皆さんの採集センスが高かったのか、とても多くの生き物を観察することができました。メインはヤドカリやカニの仲間でした。魚類はあまり多く観察できませんでしたが、見事に採集できた子供たちが大喜びしていたのが印象に残っています。数少ない魚類の中には、主に河川の中流域から河口域でよく見られるヌマチチブも見られました。



いきもの観察会

2023
9.9

亀ヶ谷 千尋

今年のいきもの観察会は残念ながら小雨がぱらつき、絶好の観察会日和・・とはいえませんでした。しかし！雨模様には雨模様の生き物が観察できるのです。たとえば、カタツムリやナメクジの仲間は気温と湿度が高いときでないと活動しません。遊歩道の手すりや休憩スペースのテーブルの裏をのぞいてみると・・、いたいた！カタツムリの仲間を見つけました。

いきもの観察会の面白いところのひとつは、知っている人でないと分からない生き物たちの「痕跡」を教えてもらえることだと思います。

「地面がボコボコしているなあ」と思ったら、そこはイノシシが掘り返した跡で、よく見てみるとイノシシの足跡を見つけることができたりします。また、その周囲をよく観察してみると体をこすった木を発見することもあり、その幹をさらによく見てみると、イノシシの毛がくっついていることもあったりします。

晴れの日やくもりの日、暑い日や寒い日、色々な生き物たちの観察の仕方・楽しみ方を発見できるイベントになりました。

親子でガサガサ 川の生き物さがし

2023
10.21

竹本 淳史

川には魚をはじめエビやカニ、昆虫などたくさんの生き物がくらしています。本イベントではタモ網1本と自分の体を使って川で“ガサガサ”し、どんな生き物が捕まえられるのか体験しました。

子供達は川の中で生き物がいるような場所を考えるとところから始めて、水の流れや深さ、障害物で変わる生き物の動きを想像し、自分の立つ位置やガサガサの強さや速さを変えながら試行錯誤していました。

終わってみるとバケツの中にはたくさんの魚やエビカニ、トンボのヤゴなどが入っていました。

全身ずぶぬれになりながらもとびきりの笑顔をくれた子供達。川とそこに暮らす生き物たちを身近に感じられるイベントとなりました。



地域連携

近隣の幼稚園・保育園・学校との取り組み

『総合的な学習の時間』(田名小学校 3 年生)

昨年に引き続き、田名小学校の学習のお手伝いとして、相模川を題材とした環境学習に協力しました。6月26日に小学校を訪れ、川の生き物について授業しました。子供たちから熱心な質問が相次ぎ、授業の大部分が質疑応答になるほどでした。そして、7月4日にはいよいよ川へと出向きました。川岸や浅瀬で見られた生き物について説明したのですが、子供たちは自分が見つけた生き物や、周りの風景、足元の石に夢中でした。コロナ禍もひと段落し、こうした集団活動が再開したことは、大変嬉しいことです。



『総合的な学習の時間と田名北水族館』(田名北小学校 3 年生)



2023年3月23日から4月23日まで、館内のエントランス通路で「田名北水族館」を実施しました。これは2022年度の田名北小学校3年生の「総合的な学習」の集大成となる成果です。これまで数か月間にわたり、自分たちで生き物を採集し、水槽を管理しながら飼育してきました。その過程で、生き物をはじめとする相模川の自然について、肌身をもって学べたのではないかと考えています。

2023年度からも、新3年生が同様の学習を始めています。先輩たちに続け、とばかりに、生き物たちを相手に奮闘しています。私たちもその思いに応えるべく、お手伝いを続けたいと思っています。



『稚鮎放流会』(田名幼稚園、友愛保育園、桑の実保育園の園児たち)

毎年、アユが遡上してくる春に稚アユの放流会を実施しています。

今年はなかなか天候に恵まれず、延期に次ぐ延期でしたが、5月18日によりやく実施できました。当日は良い天気の中、引率の先生方にもご協力頂きながら、安全に放流を行うことができ、園児たちも嬉しそうにアユたちを見送っていました。



『田んぼ体験』

(田名幼稚園、友愛保育園、桑の実保育園の園児たち)

毎年実施している、近隣の幼稚園・保育園との田んぼ体験。

今年も元気いっぱいな園児たちが、泥んこになりながら田植えや稲刈りなどをおこないました。最初はおそるおそる作業していた子も、次第に笑顔で楽しむ様子が見られました。楽しみながらお米作りの大変さを学んで頂けたと思います。



『花苗植え』(友愛保育園の園児たち)



当館は友愛保育園と相模原市まち・みどり公社が行っている「花のまちづくり・みどりいっぱい運動」に参加しています。

春(6月)と秋(11月)には友愛保育園の園児たちと一緒に、季節のお花を植えています。春にはニチニチソウと赤と青のサルビア。秋にはパンジーとビオラを植えました。今年もおさかな型の花壇が色とりどりのお花でいっぱいになりました!

園児たちとみんなで作った花壇もぜひ見に来てください。

調 査 ・ 研 究

伊藤 寿茂

相模川ふれあい科学館では、他機関と連携して身近な自然を調査・研究しています。生き物の生態や分布について、分かったことを発表会でお話したり、論文にまとめるとともに、展示を通してその内容を皆さまに分かりやすくお伝えし、その普及啓発に努めています。

相模川支流「串川」における魚類・底生動物調査



参加日：2023.4.5
参加者：西田 征晃、伊藤 寿茂

相模川の支流の中でも自然豊かな「串川」を調査することで、相模川の上～中流域本来の自然環境を知ることができると考え、網を用いて川の中の生き物を調べました。希少種を含む在来の生き物が多く生息することが分かりました。その成果の一部を、日本水族館協会が主催する水族館研究会でポスター発表しました。

蓮池における魚類・底生動物調査 (神奈川県内水面試験場に協力)



参加日：2023.5.29 参加者：伊藤 寿茂

藤沢市鶴沼に位置する「蓮池」は、かつて在来のミナメダカ(通称藤沢メダカ)が生息していたことで知られます。網を用いて池の中の生き物を調べ、現状を確認しました。アメリカザリガニやミシシippアカミミガメなどの外来種が生息することがわかり、在来種の少なさが示されました。

引地川ビオトープ池における魚類・底生動物調査 (神奈川県内水面試験場に協力)



参加日：2023.6.12 参加者：伊藤 寿茂

藤沢市大庭の下流域に整備された引地川親水公園に隣接したビオトープ池において、網を用いて池の中にすむ動物を調べました。カダヤシやアメリカザリガニ、ウシガエルといった外来種が多数生息することがわかり、在来生物の少なさが示されました。

ミヤコタナゴの保護育成にともなう個体数調査 (横浜市教育委員会に協力)



参加日：2023.10.11 参加者：伊藤 寿茂

屋外池で飼育管理されているミヤコタナゴの繁殖状況の確認を兼ねて、飼育設備の落水清掃と個体の計測を行いました。

横浜市内都市公園の野外池における環境管理作業 (横浜市教育委員会に協力)



参加日：2023.11.11 参加者：山田 一輝

泥が沈殿した野外池のメンテナンスとして、余分な泥をくみ出す作業を行いました。その際、泥と一緒にくみ出された淡水二枚貝の救出も併せて行いました。

タクサ 日本動物分類学会誌 Vol.54 (査読付論文) 2023.3 掲載

イシガイ類とその生態環境の保全 —カワシンジュガイ科、イシガイ科の分類体系変更に着目して—

著者：柿野 亘(北里大学獣医学部)
竹内 基(岩手県立久慈高等学校)
伊藤 寿茂(相模川ふれあい科学館) ほか

淡水二枚貝イシガイ類の保全のために考えるべきことについて、これまでに公開された関連論文を総括した「総説」として公表しました。中心となっておりまとめたのは、北里大学獣医学部の柿野亘先生です。



Venus Vol. 81 (査読付論文) 2023.6 掲載

Two Further Host Species, *Gymnogobius urotaenia* and *Poecilia reticulata*, for *Glochidia* of the Freshwater Unionid Mussel *Nodularia douglasiae* in Experimental Tanks

著者：伊藤 寿茂(相模川ふれあい科学館)
團 重樹(東京海洋大学海洋生物資源学部門)
柿野 亘(北里大学獣医学部)

淡水二枚貝イシガイの幼生が寄生して稚貝まで育つことのできる相手「宿主」を飼育実験で明らかにしました。在来種であるウキゴリと、南米原産で日本では外来種や観賞魚として知られるグッピーです。これら2魚種がイシガイにとって新たに判明した宿主だと分かりましたので、論文として公表しました。



Venus Vol. 81 (査読付論文) 2023.6 掲載

飼育下におけるイシガイ目成貝3種と幼生2種の塩分耐性および汽水湖における幼生2タイプの魚体寄生事例

著者：伊藤 寿茂(相模川ふれあい科学館)
柿野 亘(北里大学獣医学部)
市川 圭祐(新江ノ島水族館)
成田 勝(東北緑化環境保全株式会社)
竹内 基(岩手県立久慈高等学校)



海の近くにある淡水域が環境変化や気候変動によって海水にさらされた時、そこにすむ淡水二枚貝に大きな影響を与えるはずですが。飼育実験と野外調査により、魚に寄生した貝の幼生が一時的に塩水に耐えて生き延びること、自然下の塩水域にすむ魚にも貝の幼生が寄生していたことを明らかにしました。イシガイ類の幼生が、魚に寄生して塩水域を超えて移動し、他の淡水域へと分布拡大する可能性とともに、論文にして公表しました。

伊豆沼・内沼研究報告 Vol.17 (査読付論文) 2023.7 掲載

相模川流域における国内外来種ヌマガエル *Fejervarya kawamurai* の初記録

著者：竹本 淳史、伊藤 寿茂(相模川ふれあい科学館)

本来は関東地方に分布しないヌマガエルが、当館近隣の水田で生息確認されました。相模川流域からのヌマガエルの記録は初めてのことであり、国内外来種である本種の分布拡大の例として重要と考え、論文にして公表しました。



伊豆沼・内沼研究報告 Vol.17 (査読付論文) 2023.7 掲載

飼育下で判明したササノハガイ幼生の新宿主3種

著者：伊藤 寿茂(相模川ふれあい科学館)
松井 華花(北里大学獣医学部)
柿野 亘(北里大学獣医学部)

淡水二枚貝ササノハガイの幼生が寄生して稚貝まで育つことのできる相手「宿主」を飼育実験で明らかにしました。新たに判明した宿主であるアブラハヤとドジョウ、ミナミメダカは、ササノハガイの繁殖に貢献しうる魚であることを、論文にして公表しました。



自然環境科学研究 Vol.36 (査読付論文) 2023.12 掲載

大型水槽下で初確認されたコイ *Cyprinus carpio* によるソウギョ *Ctenopharyngodon idellus* への掃除行動

著者：中市 創太朗(北里大学海洋生命科学部)
伊藤 寿茂(相模川ふれあい科学館)

当館「流れのアクアリウム」で展示飼育中のコイが、同居のソウギョにまとわりつき、その体をなめるような行動が記録されました。コイに体をなめられているソウギョは逃げることなく、ヒレや体の向きを変えてコイの掃除を受け入れたことから、相利共生のひとつ「掃除行動」であると考えられました。淡水魚同士による掃除行動は非常に珍しいため、論文にして公表しました。



他団体・他機関 との連携

ミニ企画展示「もっと知りたい相模の自然」

伊藤 寿茂

「もっと知りたい相模の自然」をテーマにした本企画は今年で 7 年目に突入です。当館のある相模原市や相模川の流域、その先にある相模湾には、まだまだ紹介しきれていない自然がたくさんあります。それらの現状や価値を後世に伝えるために、数々の団体や機関が調査・研究を行っており、様々な方法で普及啓発に努めています。当館ではその役割を、この「ミニ企画展示」が担っています。小さな展示ではありますが、その内容は私たちだけでなく、多くの協力者の労力と学識、探求心の賜物です。この場を借りて、ご協力を頂いた方々に心よりお礼を申し上げます。

ホトケドジョウに寄生して育つ貝 ヨコハマシジラガイ

ヨコハマシジラガイは、タナゴの産卵用としても知られる淡水二枚貝です。神奈川県では芦ノ湖(早川)、鎌倉(境川)、小網代の3地点だけに生き残っている希少種です。

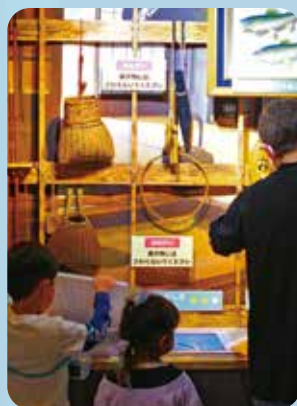
淡水二枚貝の幼生は、魚の体に寄生する性質があり、寄生相手がいないと成長することができません。これまでの調査の結果、ヨコハマシジラガイの幼生は、ホトケドジョウとの相性が特に良いことが判明しています。今回のミニ企画展示では、ホトケドジョウを「ゆりかご」として利用する貝の変わった習性をご紹介しました。協力：北里大学獣医学部
期間：2023.1.31 ~ 4.9



この道具、 どうやって使うかわかるかな？

相模川は昔からアユがたくさん暮らす川として知られ、例年6月1日のアユ漁解禁をたくさんの方が楽しみにしています。釣り人にとって“漁具”はとても大切なものですが、そのなかでも今では貴重な、竹で作られた竿や引き舟、竹ひごで細かく編みこまれたびくなどをお借りして展示しました。どの道具もとても味わいがあり、作り手の真心や遊び心が感じられるものでした。

協力：相模川第一漁業協同組合
期間：2023.4.11 ~ 7.9



食べて美味しい見てキレイ ムラサキウニとムラサキガイ

紫色が映える海の生き物であるムラサキウニとムラサキガイ。新江ノ島水族館と協力して江の島の生き物を調べる中で、どちらも岩や岸壁に張り付いてくらすにも関わらず、同じ場所でほとんど見られないことがわかりました。開催中の特別企画展「相模の海の生き物展」に合わせて、これら2種類の美味しい海の幸を、生きた状態で比べてご覧頂けるようにしました。

協力：新江ノ島水族館
期間：2023.10.17 ~ 2024.1.14



淡水の貝が海をわたる？ イシガイ類の塩水適応

タナゴが産卵に使う淡水二枚貝(イシガイ類)は、ときに海水の影響を受けうる下流域や沿岸の湖にも生息します。そこでは、海水が流れ込んで塩分が高くなることがありますが、貝たちがどのくらいの塩分に耐えられるのかは、最近まであまり分かっていませんでした。大学などと協力して、イシガイ類の塩分適応力について調べたところ、塩分に極めて弱い成貝に対して、幼生は魚に寄生していれば塩水中でも生き延びて成長できることがわかりました。塩水に弱いイシガイ類ですが、幼生時代に魚の助けを借りて、汽水域や海をわたる可能性があることが示されました。

協力：北里大学獣医学部、東北緑化環境保全
久慈高等学校、新江ノ島水族館
期間：2023.7.11 ~ 8.13



相模川流域で初記録 国内外来種ヌマガエル

ヌマガエルは西日本に自然分布するカエルですが、近年になって東日本でも発見されている国内外来種です。2023年に行なった当館の調査により、近隣の田んぼから本種が見つかり、相模川流域からの初記録であることがわかりました。展示では、その時の様子と合わせて、ヌマガエルが持つ特殊な能力について、分かりやすくご紹介しました。

協力：新江ノ島水族館、神奈川大学
期間：2023.8.14 ~ 10.15



ふれあい田んぼ 探検隊

展示飼育部 山田 一輝



ふれあい田んぼ探検隊は、毎年当館の脇にある「ふれあい田んぼ」で実施しているイベントです。今年度も無事開催することができ、とてもほっとしました。というのも実は2022年の10月に、ふれあい田んぼに車が突っ込んでしまうという事故がありました。ガラスや破片が田んぼの土の中に混じっては大変だ、ということもあり、全ての土を入れ替えるという大工事がおこなわれたのです。

棚田状になっている田んぼの畦も、一度崩して作り直しとなりました。

工事が終わり綺麗になりましたが、田んぼの状況は全てリセット。ちゃんとお米が育つかねえとハラハラしていましたが、結果は例年通りの出来栄でした！参加してくれたみんなの頑張りあってのことでしょう。収穫祭では立派に出来上がったお米をみんなでお腹いっぱい食べることができました。イベントを通じて、田んぼが持つ「生き物」と「食」のつながりを体感していただけたと思います。



特別企画展

ちっちゃんな 生き物展

～小さいことには理由がある?～



ちっちゃんい体にでっかい魅力

地球上には様々な大きさの生き物がいます。

例えば、同じネズミの仲間でも、体長が1mを超えるカピバラから、わずか5cmほどのコビトハツカネズミまで様々です。

「小さい＝弱い」というイメージがあるように、一見すると小さいことは不利なようにも見えますが、「見つかりにくい」「食べ物の量が少なくすむ」など、小さくなることで有利になることもあります。

様々な大きさの仲間がいる中で、体を小さくすることを選んだ生き物たちに焦点を当て、ちっちゃんいけれど強かに生きる生き物たちをご紹介します。



キンチャクガニ



ウスユキバト



コビトハツカネズミ



ヒナウズラ



キイロサンゴハゼ



ヒレナガネジリンボウ
コトブキテッポウエビ

展示飼育部 亀ヶ谷 千尋

企画者
コメント
Comment

「うわっ、ちっちゃん！」

その声が聞きたかったんです！

体の小さな生き物というのは、展示が少し難しい生き物です。

これは「飼育するのが難しい」という意味ではなく、小さい体の利点として「見つかりにくい」ということが挙げられるように、「展示しているのに生き物が見つけれない」という意味で難しいのです。

来館者のみなさんに見せるためには、見えるようにする工夫が必要となります。

小さい生き物に限らず、水槽のレイアウトをするときには、生き物が「ここにいるだろう」ポイントを作ります。その生き物がどんな場所を好むか、見えない所に隠れないようにするにはどうしたらよいか、しっかりと考えてレイアウトを作らないと、生き物は思ってもいなかったところに入り込んでしまいます。

小さい生き物は見つけにくいですが、その代わりに見つけると結構じっくり観察してもらえます。

私自身、大きな生き物と身体づくりが変わらないのは分かっていますが、

わずか数ミリの細い手足が動くのが不思議で、じっくり見てしまいます。

会場内で「うわっ、ちっちゃん！」という声が聞こえるたびに、(そうでしょ～、ちっちゃんいしょ～)と内心ニヤニヤしていました。



ミツボシゴマハゼ



クリスタルレインボーテトラ



マネシヤドクガエル



特別企画展
ワンダフル!!
昆虫展
 ～見ておどろく！知っておどろく！～

オキナワハンミョウ



ワンダフルな
昆虫の世界へようこそ！

“昆虫の世界”それは地球上でもっとも“ワンダフルな世界”！！
 知られているだけで100万種を超えるほどの多様さをもつ昆虫たちは、
 すむ環境にあわせて形も色も、暮らし方までも多種多様に進化してきました。
 大きな体や小さな体、カラフルな色、身を守る毒…。
 そんな“ワンダフル”な昆虫たちをいっぱいご紹介しました！



ヘラクレスオオカブト

コノハムシの仲間 (標本)



アリの巣



メキシカンレッドニー



カイコガ



ヨナグニサン (標本)



オウゴンオニクワガタ



展示飼育部
山田 一輝

企画者
 コメント
 Comment

皆さまは昆虫が好きですか？私は今こそ昆虫が
 好きといえるようになりましたが、物心ついた時から
 ずっと好きだったわけではないんです。好きでも
 嫌いでもなかった昆虫が好きになったきっかけは、
 大学生の時に会ったゲンゴロウの仲間たちでし
 た！見るほどかわいく、知るほど面白い水生昆虫た
 ちは、私を“ワンダフルな昆虫の世界”へ導いてくれ
 ました。それ以降、私は虫の世界（主に水生昆虫）の
 とりこになっているのです。

私が本特別企画展を企画したのは、ぜひ皆さまに
 もそんな“ワンダフルな昆虫の世界”を体感してほし
 かったからです。昆虫たちは本当に“驚き”に溢れて
 います！想像を超える大きさ＆小ささ、見たことな
 いほどカラフルな体、葉っぱそっくりの見た目、知っ
 ている虫の知らない特技など、あらゆる機能がつま
 りにつまったその姿は、普段意識しない自然や進化、
 生命の神秘を感じさせてくれます。この“驚き＝
 ワンダフル”こそが昆虫の面白さです！

驚き→面白い→興味UP→好き、になるなんてそ
 う簡単にはいかないかも知れませんが、この特別
 企画展を通して、少しでも皆さまの世界が広がった
 のなら嬉しく思います。

今はたいてい好きじゃなくても、いつ何がきっか
 けで好きになるかわからないものです。この企画展が誰
 かのきっかけになったなら最高に嬉しいですな～！



タガメモドキ



特別企画展
相模の
海の生き物展
～相模湾をぎゅっと!～

ウツボの仲間

川と海はつながっている

相模川が行き着く先には広大な海があります。その名は相模湾。漁業やレジャーといった「人の営み」が盛んでありながら、多種多様な生き物がくらす海です。そこには「生き物と人が共存・共栄する環境」があります。今回の企画展では、20年以上にわたって相模の海と川に触れ合い、そのつながりを味わってきた飼育員として、地元の海の生き物の面白さをお伝えすることを目指しました。



ウミザリガニ



ミズクラゲ



企画者
コメント
Comment

展示飼育部
伊藤 寿茂

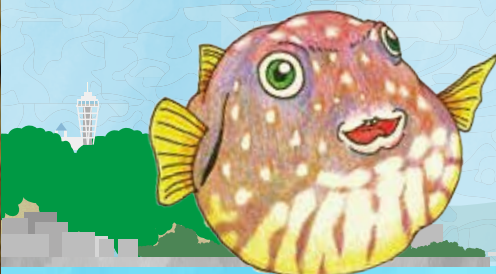
生まれてからずっと神奈川県海沿いでくらししてきた私にとって、相模湾は相模川と同じくらいなじみ深い水辺です。大人になってからも仲間たちと江の島や三浦半島の海辺にすむ動物や海藻の調査・研究を続けてきました。

今回の特別展はそんな私の、これまでの活動の集大成になるものを目指しました。それにしても展示したい種が多過ぎます。いかにも地元の生き物らしい種だけに限ったとしても、とても一度では紹介しきれません。そこで、ちょっと発想を変えてみようと思いました。せっかく相模川の名を持つ当館で開催するので、相模川とかかわりの深い種をあえて選び、海と川のつながりを感じて頂くことを狙いました。例えば、本来は深海魚でありながら、相模川の河口で見つかったことがあるユメカサゴや、満ち潮に乗って川の中に入ってくることもあるミズクラゲ、といった具合です。さらに、暖流や寒流によって遠方から運ばれてくるような、ちょっと見慣れない生き物も積極的に紹介しようと思いました。

そうした生き物を指して、地元の海らしくないと感じた方もいるかもしれません。一方で、地元の海って想像したより色々あるんだね、面白いからもっと知りたい!と感じてくれた方もいたかなと思うのです。

地元の海や川を調べれば調べるほど、私たちが聞き取る水辺の情報は、実はほんの一部で、知らないことの方が多いと実感しています。今回の特別企画展を通して、皆さまにもそんな考えが脳裏に浮かんだのだとしたら、展示したかいたが良かったと思います。

セミエビ



ハタタテハゼ



カワハギ



カエルウオ



ソウリエビ



サイエンスカフェ開催

特別企画展の開催に合わせて、相模湾のもう一つの主役、海藻を取り上げました。過去に江の島の海藻を調べてまわった経験をもとに、担当者自ら講師を務め、参加者の皆さまには海藻の押し葉標本づくりを体験して頂きました。題材が海藻だと地味すぎるかなと心配したのもつかの間、想像以上に盛況で、標本用の紙の追加や、作り方の指導に追われるあっという間の1時間でした。作成した海藻標本は、お家に持ち帰って乾かしてもらって完成です。皆さまの完成品が見られなかったのだけが、心残りです。



特別企画展
いきものたちの目展
 ～せかいがひろがる目はなし～

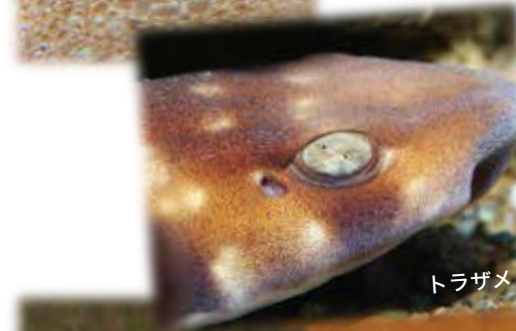
エボシカメレオン

その目にはどんな世界が見えているの？

みなさんは自分以外の生き物たち、例えば飼っている犬や猫、鳥や魚たちにどんな世界が見えているのか、気になったことはありませんか？自分以外の生き物たちにどのような世界が見えているのか、本当のところはわかりません。しかし、科学の発展にともない、目のつくりなどを調べることで生き物たちが見ているであろう世界がわかってきました。この企画展では、生き物たちの目のつくりやその進化、見えている色、見えている範囲などを、その目の持ち主を間近に見ながらご紹介しました。



ヘラガンソウピラメ



トラザメ



グリーンイグアナ



オカメインコ



ヨザル



デグー



メイタイシガキフグ



ヒオウギガイ



モンハナシャコ



ブラインドケーブカラシン



オキナワオオミズスマシ



カイウサギ

展示飼育部 竹本 淳史

企画者 コメント Comment

…あれは、もう10年以上前のこと。「目」の企画展がやりたいんだよね」という話を当時の上司だったMさんがしてくれました。

私の心の中(たしかに魚の目ってキレイだけど、そんなに面白いのかなあ～)

職場は変わり、当時のMさんの年齢を過ぎた今、自分なりの目の企画展にチャレンジしてみようと思いました。

そもそも目って何だろう？

調べてみると、動物の目の始まりは単純な光を感じる細胞でした。これは太古の海でクラゲがエサの多い浅い＝明るい場所を知るために活用されていたようです。また、驚くことにクラゲは共生していた植物の目の遺伝子を流用して、自身の目を作ったとか。なるほど、これは面白い。

恐竜の生きていた時代には私たちのご先祖様は生き延びるために夜行性となり、ヒトはその名残で色を見る能力を退化させて今に至ると。つまり、恐竜の子孫である鳥や、夜行性にならなかった爬虫類などはヒトよりも色を見る能力が優れている！ヒトには見えない紫外線が見えるものもいるって！？なるほど～面白いなあ～

えっ イルカやクジラには色がわからないって！！？

調べれば調べるほど面白い「目」。まさにネタの宝庫。

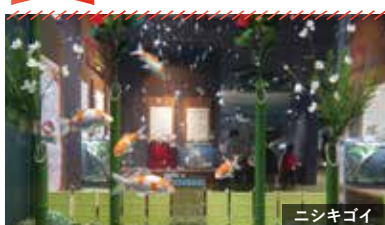
どの話を企画展でするか悩ましかったのですが、今回は「つくり」「見えている色」「見えている範囲」「数」について紹介しました。

私たちはどうしても、自分の見ている世界を中心に物事を考えてしまいます。でも、他の生き物にとって違う見え方を知っていると、その生き物の気持ちになって理解しようとすることもできます。他の生き物たちの見ている世界を想像している時間は、私にとってワクワクする楽しい時間でした。

正直、Mさんが目の企画展を作ったらもっとすごいものが出来ると思いますが、こんな楽しい時間のきっかけをもらえたことに今は感謝しています。



1月 めでたい紅白



ニシキゴイ

1年の始まりに、めでたい紅白柄のニシキゴイを展示しました。玄関先に梅や椿が飾られているようなイメージのレイアウトにしました。

2月 みかんが…泳いでる！



金魚 (ピンポンパール)

寒い冬はやっぱりこたつでみかん！気持ちよくてついうとうとzzz。あれ？みかんが泳いでる！？なんだ夢かあ〜。そんな妄想をみかんそっくりなピンポンパールで形にしました。

3月 ももいろの季節



メキシコサラマンダー (ウーパールーパー)

桃の花が咲く3月は、ピンクの体が印象的なメキシコサラマンダーを展示しました。桃の花(造花)の横でのんびり過ごす様子をご覧いただきました。

4月 めだかの学校の入学式



ミナミメダカ

入学式の時期に合わせて、体育館で行われる入学式を再現し、ミナミメダカを生徒に見立てた展示をしました。

5月 花にたとえると…



クロユリハゼ

暖かな5月は様々な花が咲く季節で、大輪の花を咲かせるユリのその一つです。そんなユリの花にたとえて名付けられたのがクロユリハゼです。ゆったり泳ぐ姿は気品を感じさせます。

6月 虹がでた！



金魚 (頂天眼)

しとしと雨の多い梅雨空に、時折訪れる晴れ間。そんな時にはつい虹が出ていないか探してしまいます。金魚の仲間頂天眼は、目が上向きについて、まるで水中から空の虹を見ているようです。

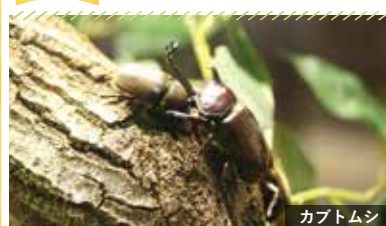
7月 暑い夏には流しそうめん



ドジョウ、アルビノドジョウ

体が細長くてクネクネした動きをするドジョウを、そうめんに見立てて、流しそうめんをイメージしたレイアウトで展示しました。

8月 ムシムシな夏とカブトムシ



カブトムシ

夏の昆虫の王様、カブトムシを展示しました。大きく力強いカブトムシは、住宅街近くの雑木林などでも見られる意外と身近な昆虫です。今回は雑木林に見立てたレイアウトでご覧いただきました。

9月 夏の終わり



ベタ「クラウンテール」(改良品種)

夏から秋にうつりかわる9月。ヒガンバナは夏の終わりを告げるように、赤い花を咲かせます。「ベタ」のクラウンテールという品種は、ヒガンバナの花のような独特なヒレを持ちます。

10月 勝手に栗を拾うべからず



ヒメハリテンレック

秋は栗がおいしい季節！甘栗に栗ご飯にモンブラン…おっとよだれが。栗は実ると、トゲトゲのいがぐりが枝から落ちてきます。おや？落ちたいがぐりにヒメハリテンレックがまがっていました。

11月 ひらひらもみじ



レッドテトラ、レモンテトラ

体が赤色のレッドテトラと黄色のレモンテトラを、ひらひらと舞い散るもみじの葉に見立てて秋の風景を再現しました。

12月 Merry Christmas!!



ネオンテトラ、コンゴテトラ

12月はクリスマス为主题に、キラキラとしたネオンテトラとコンゴテトラを展示しました。四角い水槽をプレゼントボックスに見立て、プレゼントの中を泳ぐ姿をご覧いただきました。

生き物たちはそれぞれのくらし方にあわせて、獲物を捕まえたり身を守ったりするための能力を進化させてきました。図鑑を開いてわくわくするようなその生態を知れたとしても、実際に自分の目で確かめたくありませんか？

ミニトウク水槽では毎日13:30から、生き物たちが持つ能力を、実験を通して実際に見ることが出来ます。それ以外の時間にも、動画で生き物たちの能力を紹介しました。

かたい？やわらかい？ ヒトデのからだ

2022.12.26
2023. 4.16

生物種：ルソンヒトデ、アオヒトデ、コブヒトデ



海の底に暮らすヒトデの仲間は、その多くがさわるとかたい感触をしています。そのヒトデをひっくり返したままにしておく…あれ？体の形が変わって起き上がりました！

ヒトデの体には小さな骨がたくさんあって、それがピタッとくっついてカチカチになったり、離してグニャグニャになったり、硬さを自在に変えることが出来ます。

ごつごつした岩の上を歩いたり、すきまに隠れたりするのにぴったりですね。

さかな釣りするさかな

2023.4.16
2023.7. 9

生物種：イロカエルアンコウ



海底の岩にそっくりなイロカエルアンコウ。泳ぐのはあまり得意ではないけれど、大好物の魚を捕まえるのが腕の見せ所！ただ待っているだけじゃなくて、顔の前で自前のルアーをふりふり〜パクッ。

さかな釣りが得意だけど、振らなくてもエサが食べられることを知ってしまったカエルアンコウに、まるでエサが生きているかのように動かしてルアーを振ってもらう苦労があったのはまた別のお話。

魚の呼吸はエラ呼吸？

2023. 7.11
2023.10.22

生物種：クモウツボ、タイワンキンギョ、ミナミトビハゼ



私たちは水中だと息が出来ませんが、魚はエラ呼吸なので水の中でもおぼれません。って、あれ？水から出ちゃってる魚がいるよ！？これは平気なの？このミナミトビハゼはエラ呼吸とあわせて皮膚呼吸も他の魚より出来るので、体がぬれていれば大丈夫です。その他にもタイワンキンギョのように直接空気を取り込んで呼吸できる魚もいます。魚の呼吸はエラ呼吸だけじゃないんですね。

発電する魚！デンキウナギ

2023.11. 7
2024. 1.21

生物種：デンキウナギ



私たちの生活には電気が欠かせませんが、発電のためには化石燃料を燃やしたり、太陽光・風力などを利用したりする必要があります。しかし、地球上には自分の体で最高800Vに達する電気を生み出すことのできるデンキウナギがいます。敵に襲われたときに撃退するためや、獲物を気絶させて捕らえるため、さらには弱い電気をレーダーのように使い自分の周りの状況を知ることにも利用されています。

海の生き物水槽

ピタッととまる！

生物種：フタスジタマガシラ



少し泳いではピタッととまるといった、独特な泳ぎ方をするフタスジタマガシラについて、生体展示と併せてスローモーション動画でピタッととまる時の体の動きをご紹介します。

期間：2023.2.28～5.7

よくみると面白い！ スズメダイの仲間

生物種：スズメダイの仲間



日本で90種類ほどが確認されているスズメダイの仲間たち。その中には、そっくりさんのデバスズメダイとアオバスズメダイや、同じ種類なのに尾ビレの色がオスとメスで違うリスズメダイなどがあります。よく見ると面白いスズメダイの仲間を紹介しました。

期間：2023.5.9～7.2



ふくらんで身を守る ハリセンボン

生物種：ハリセンボン、メイタイシガキフグ



多くのフグは内臓などにとても強い毒を持っていますが、ハリセンボンは毒を持たないフグの仲間です。毒の代わりに、敵に襲われたときには海水を飲み込んでボールのようにふくらみ、さらに全身にあるトゲを立てて身を守ります。

期間：2023.7.4～10.26

イイダコは 「らっきょう」が好き!?

生物種：イイダコ



イイダコは成長しても手のひらに乗るほど体の小さなタコです。食べておいしい、見ても楽しい生き物ですが、秋には岸から投げ釣りで狙えるのも魅力の一つです。釣りは狙う生き物の好物をエサにするのが良いのですが、イイダコの場合「らっきょう」を仕掛けに用いる場合があります。採集に行った時も、確かにらっきょうで釣れました。一説にはタコの好物の貝と間違えて飛びつくのではないかとされていますが…タコと会話ができるのなら、本当にそうなのか聞いてみたいです。

期間：2023.10.27～12.31

小川の実験観察テーブル

見分けてみよう！相模川河口で 見られるイソガニのなかま

生物種：イソガニ、ケフサイソガニ
オオヒライソガニの仲間
ヒライソガニ、ヒメアカイソガニ



海の磯遊びでおなじみのイソガニの仲間。うすい塩水でも生きられるため、相模川の河口にもいくつかの種類がくらしています。似ている種類もよく見ると、ハサミや甲らの色や形が違います。じっくり観察して、見分けてもらいながら、カニたちの可愛い表情をお楽しみ頂きました。

期間：2023.4.11～7.2

見分けてみよう！ 小川と海のそっくりさん ～アゴハゼとウキゴリ～

生物種：アゴハゼ、ウキゴリ、スミウキゴリ

海の磯で見られるアゴハゼと、川で見られるウキゴリは、見た目がよく似たハゼの仲間です。よく観察すると、体の模様やヒレの形で見分けることが出来ます。左右に分かれた水槽を見比べながら、身近な小型ハゼ類の愛らしい表情と動きをお楽しみ頂きました。

期間：2023.10.31～2024.1.21



子育てをしない！？ ～托卵するムギツク～

生物種：ムギツク、ドンコ、オヤニラミ



子育て(卵の世話)を他の魚に任せてしまう「托卵」をする習性があるムギツクを、托卵される側の魚類2種と一緒に展示しました。併せて、托卵の様子を映像でご紹介しました。

期間：2023.7.7～10.29



水辺の生き物水槽

生物種：カヤネズミ、ニホンイシガメ、
アオダイショウ、ヒガシニホントカゲ
ニホンカナヘビ、ヌマガエル

今年度は、以前から展示しているアオダイショウの展示を少々変更しました。アオダイショウは、本州で見られるヘビの中では特に木登りが得意なヘビで、自然界でも樹上で活動している姿をよく目にします。そこで、どうにも平たんになりがちだった展示槽の中に人工の葉や枝を多く配置しました。すると枝の上で休んだり、絡みついたりしながら動く姿がよくみられるようになりました。ちょっとした変化ですが、自然に近いアオダイショウの動きを引き出したのではないのでしょうか。



枝に絡まるアオダイショウ



ニホンカナヘビ



カヤネズミ



ニホンイシガメ

ヒガシニホントカゲ

インターンシップ・学芸員実習

期間：2023年1月～12月

昨年に引き続き、多くの方々が当館でのインターンシップに参加しました。大学生の学芸員過程の実習受け入れが主でしたが、小学校の先生の教員研修、専門学校生や中学生の職場体験としての受け入れもありました。一部の学生には「実習生による水槽展示」の制作や館内イベント「ポイントガイド」の実演、当館ホームページコンテンツ「飼育日誌」の執筆を最終課題として担って頂きました。当館での体験を、今後の人生に生かして欲しいと願っています。



ものづくりワークショップ

営業・管理部 熊田 奈津子

2014年から始まったものづくりワークショップ。9年目となる今年も多くのお客様にご参加いただきました。特に夏休みの時期には非常に多くのお客様に作品を作っていたき、過去最高の参加数となりました。皆様が作られる作品には一人一人のオリジナルのデザインがあります。「楽しかったね」「おもしろかった！」「これってこんなふうにするんだ！」などお客様自身が発見や楽しさを感じていただけた時はもちろん、皆様の作品を見て、こんなデザインでの作り方もあるのか！と担当者の私も気付きをいただくこともあります。喜びや、ご要望、思い出などのさまざまなお声をいただけることはとても嬉しい限りです。ものづくりワークショップは小さなお子様から大人の方まで、どなたでもご参加いただけます。ご来館の際は、是非多目的室2へ遊びに来てくださいね！

ものづくりワークショップ開催一覧(2023年1月1日～12月31日)

いきもの風づくり	1月 1日～ 1月15日の土日祝日 ※冬休み期間1/1～1/9は毎日開催	有料
ゆらゆらシーソー	1月10日～ 2月10日の平日	無料
水辺のキーホルダー	1月21日～ 2月 5日の土日	有料
こねこね いきものせっけん	2月11日～ 4月 8日の土日祝日 ※春休み期間3/18～3/31は毎日開催	有料
パタパタ絵がわりカード	2月14日～ 3月17日の平日	無料
チョキチョキ紙あそび	4月 3日～ 5月31日の平日	無料
ポンポンスタンプきんちゃく	4月15日～ 5月28日の土日祝日	有料
あみあみクラフト	6月 1日～ 7月20日の平日	無料
ベタ★チョキ レザーキーホルダー	6月 3日～ 7月 9日の土日	有料
カラーボール水族館	7月15日～ 8月27日の土日祝日 ※夏休み期間7/21～8/27は毎日開催	有料
いきものロケット	8月28日～10月31日の平日	無料
ねんどマグネット	9月 2日～10月 9日の土日祝日	有料
くるくる 毛糸ストラップ	10月14日～11月23日の土日祝日	有料
カップでつくろう 水辺のオーナメント	11月 1日～12月22日の平日	無料
スノードーム水族館	11月25日～12月24日の土日	有料
いきもの風づくり	12月25日～12月31日 ※冬休み期間12/25～12/31は毎日開催	有料



多目的室2では、写真家の伊藤洋佑さんが撮影した相模川にすく様々な生き物たちの写真を展示しています。季節ならではのいろんな姿を見ることができます。

相模川のともだち一覧(2023年1月～12月)

1月 ダイサギ	7月 アズマヒキガエル
2月 カワセミ	8月 ミヤマアカネ
3月 アオダイショウ	9月 ゴマダラチョウ
4月 アズマヒキガエル	10月 シオカラトンボ
5月 ナナフシモドキ	11月 カイツブリ
6月 モンキクワカスミカメ	12月 カルガモ

オオキンケイギク



■アクセス Access



電車 バス ご利用	JR 横浜線 相模原駅南口より神奈川中央交通バス「水郷田名」行き「ふれあい科学館前」バス停下車すぐ			
車を ご利用	国道16号線	相模原駅入口	県道503号	上溝
	圏央道 相模原愛川IC	上溝バイパス	県道54号	相模川ふれあい科学館

■入館料金 (税込)

区 分	個 人	年間パスポート	団体 (20名以上)
大人 (高校生以上)	450円	1,350円	360円
小人 (小・中学生) ※1	150円	450円	120円
シニア (65歳以上)	220円	660円	170円
幼児 (小学校就学前) 障がい者と同伴の大人1名※2 ひとり親家族等※2	無料		

※1 相模原市の子どもの施設使用料等の無料化に伴い、市内にお住まいの小・中学生、市内の小・中学校に通う児童生徒は無料で入館いただけます。

※2 については、入館時に証明できる各種証明書 (写しでも可) のご提示が必要です。

■開館時間 9:30 ~ 16:30
イベント開催等により営業時間変更の場合あり

■休 館 日 月曜日 (月曜日が祝日等の場合は開館)
ただし、春休み・夏休み等の長期休暇期間は毎日開館



運営会社のご紹介

2014年1月より、相模原市から指定管理業務を受諾させていただいております株式会社江ノ島マリンコーポレーションは、下記水族館の運営業務も行っております。



相模湾に面し、右手に富士山、左手に景勝地・江の島が控える絶好のロケーションに立地する「新江ノ島水族館」は、“わくわくドキドキ冒険水族館”をコンセプトにしています。



日本や世界の淡水域に生息する生物を紹介している「世界淡水魚園水族館 アクア・トトギス」は、岐阜県によって整備され環境学習体験を实践する場として親しまれています。



〒252-0246 神奈川県相模原市中央区水郷田名1-5-1
TEL.042-762-2110 FAX.042-761-2665
<https://sagamigawa-fureai.com/>

【指定管理者】株式会社江ノ島マリンコーポレーション 【第一種動物取扱業の実施に係る掲示】氏名又は名称：相模原市 事業所の名称：相模原市立相模川ふれあい科学館 事業所の所在地：神奈川県相模原市中央区水郷田名1-5-1 動物取扱業の種別：展示 動物取扱業の登録番号：生衛 第204-00012号 登録年月日：2014年3月10日 登録の有効期限の末日：2029年3月9日 動物取扱責任者の氏名：亀ヶ谷 千尋

